

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第1回行田市地域包括支援センター運営協議会	
開 催 日 時	令和4年7月20日(木) 【開会：13時30分、閉会：15時15分】	
開 催 場 所	郷土博物館 2階 会議室	
出席者(委員) 氏 名	青木 正 山崎 孝子 松井 毅 新井 孝幸 高野 和夫 金子真紀子 鴨田 和彦 (敬称略)	
欠席者(委員) 氏 名	河本 英敏 小暮 福三	
傍 聴 者	1名	
事 務 局	健康福祉部高齢者福祉課 (吉田課長、大木副参事、春日主幹、八木主事)	
会 議 内 容	委員紹介 議題 (1) 地域包括支援センター令和4年度事業報告について (2) 地域包括支援センター令和5年度事業計画について (3) 認知症初期集中支援チーム活動報告	
会 議 資 料	○次第 ○資料一式	
そ の 他 必 要 事 項	事務局のほか、地域包括支援センターから職員が計10名出席した。	
会 議 録 の 確 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名
	2023年 8月 23日	青木 正

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
青木会長	<p>○開会【13:30】</p> <p>○委員紹介</p> <p>○会長あいさつ</p> <p>○議事【13:35～】</p>
事務局 地域包括支援センター	<p><u>[1]地域包括支援センター令和4年度事業報告</u></p> <p><u>[2]地域包括支援センター令和5年度事業計画</u></p>
青木会長	<p>ネットワークについて、同じような名前の会議が三つある。再度、具体的に説明してほしい。</p>
事務局	<p>資料7ページ、1 総合相談支援業務の表の一番上のネットワーク会議は、地域包括支援センターが主催で、ネットワーク体制を作るために、民生委員や地域包括支援センター相談協力員に、公共施設の会議室等にお集まりいただき、顔の見える関係を作りつつ、地域の高齢者の把握を務める会議である。</p> <p>地域包括支援センターが参加する会議は、例えば社会福祉協議会で行っている会議で、ネットワーク形成を主とする会議に呼ばれ、参加する場合には、下の欄の会議となる。</p> <p>包括的継続的ケアマネジメント業務の会議は、ケアマネジャーや介護職、医療職など専門職とネットワーク体制をつくる場合などを挙げている。</p>
青木会長	<p>ネットワークというのは網であるため、網の目を細かくしていくことが、お困りの高齢者を1人でも救うためのネットワークの構築になると思う。その意味では、3層になったものをネットワークで重ね合わせているイメージでもあると思う。</p> <p>さらにその他の事業も含め、それが重なり合いながら、地域の高齢者、あるいは介護している方たちでお困りの方を、なるべく早くいろいろな方法で探して発見し、支援に繋げている。</p> <p>それが、長く続いていく中で少しずつ、網の目が細かくなってきていると感じる。</p> <p>また、毎年新たな事業があり、網の目がなお細かくなって構築されると理解した。そのような中で、「こういうものがもう少しあったらいい」とか「ここと繋がっていた方がいいんじゃないか」というのがあれば紹介いただきたい。</p>

事務局	<p>市は、現在、地域共生社会の実現を目指し、世代を超えた相談支援体制の構築を図ろうとしている。</p> <p>支援は世帯全体を把握して行うものであるが、高齢者の他に、若い世代、子どもや障害者のいる世帯もあるので、障害関係や児童関係の機関と繋がる必要があるため、新たなネットワークも作っていかねばならないと思っている。</p> <p>また、支援体制ができた事例では、虐待や生活困窮、引きこもりを抱える世帯について、地域包括支援センターが主催する地域ケア個別会議を開催し、その世帯に関わる支援機関の他、自治会や近隣住民、家族も含めた会議を行うことで、その世帯を理解でき、チーム支援体制ができた事例がある。</p>
青木会長	<p>地域包括支援センターの役割が、高齢者に限らず、縦割りではなく、障害や子育て世代や児童の関係機関にも繋がり、連携していくことがこれから必要になってくる。</p> <p>全国で問題になっている引きこもりについても、ネットワークを構築することで支援体制ができてきているということか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
山崎副会長	<p>行田市の地域包括支援センター5か所の担当高齢者人口のバランスがよい。</p>
高野委員	<p>太井地区は世帯数が一番多い。高齢者世帯がどんどん増えているが、悲しい訃報もある。大体1人のことが多い。また、自治会に入っていない方が孤独死ということもあった。</p> <p>自治会では、民生委員や地域包括支援センター相談協力員などと、支え合いマップづくりをやっている。</p> <p>地域包括支援センターのネットワークということを踏まえ、センターの円滑な運営も本協議会のテーマであるが、運営上の課題はなにか。</p>
事務局	<p>地域包括支援センターは三職種を必ず置く必要があるが、職種の不足が課題である。</p> <p>地域包括支援センターの職員も、自らのライフステージによって退職する場合があるが、すぐに補充できないことがある。</p> <p>また、介護業界、医療業界も含め、働き手がだいぶ少なくなっているため、全体的な人員不足が課題である。</p>

	<p>また、長年勤務した職員が退職されると、そのスキルや能力をどう受け継いでいくかも課題である。</p>
青木会長	<p>100歳体操とながちか体操との違いは何か。</p>
事務局	<p>100歳体操は、高知県が発祥の体操で、個人に合わせ、手と足におもりをつけ、ゆっくりとした動きで行う体操である。リハビリテーション職が考案したもので、通称「100歳体操」と呼ばれている。効果検証が行われた体操で、埼玉県内でも広められている。</p> <p>ながちか体操については、ご当地体操として市が開発したもので、音楽に合わせて「ストレッチ体操」、「リズム体操」、「口腔体操」の3種類がある。効果検証は行っていないため、現在では、準備体操として活用している。</p>
新井委員	<p>カフェ名がひらがなやカタカナ、さまざま使われている。何か決まりごとがあるのか。</p>
事務局	<p>特に決まりごとはない。主催する側が、漢字、カタカナ、ひらがなを検討し、カフェ名をつけている。</p>
	<p><u>[3] 認知症初期集中支援チーム活動報告について</u></p>
山崎委員	<p>認知症ケアパスとはなにか。</p>
事務局	<p>認知症を支援するサービスを掲載しており、認知症の経過に合わせて、その時点で必要となる医療サービス、介護サービスをまとめたものである。</p>
	<p>閉会【15:15】</p>